

農山村と都市の交流のすすめ

高崎健康福祉大学教授・日本マンション学会東京支部長 松本恭治

首都圏のマンション団地は約300万戸。初期の分譲団地では、子供が転出し親だけが残っている。一般に定年退職者した元企業戦士は地域社会に馴染めずテレビ付けの日々を送る場合が少なくない。買物物が唯一の外出機会になる者も多い。筆者の調査では多くの定年退職の男性は通院することで始めて地域の人々と会話する。一方、男性に比べると女性の方が地域に友人・知人が多い。しかし子供がつかないでいた地域の人間関係は途切れがちとなり、足腰が衰えるとさらに社会的孤立に向かう場合が少なくない。男女とも寿命が伸びた今日、夫婦だけの生活又は単身の生活をどのようにエンジョイするかが課題だ。

筆者自身は定年が近づいた平成12年に東京の国立研究所から群馬県にある大学に再就職して、既に5年を経過した。徐々に周りが見えてきたが、まず驚いたのは、群馬県の都市部を馬蹄形に包む丘陵地、山間部の多くは過疎化が激しいことだ。スキー場と温泉がある地域は観光業が盛んであるが、スキー場も温泉もなく、工業、商業も誘致できない中山間地の村はただひたすら過疎化が進む。群馬県の古民家は福島県に次いで全国2位の多さだが、多分過疎化に伴う経済活動の停滞が古民家大量保存の原因だ。長野県に接して日本で高齢化率1、2位を争う南牧村は景色もいいし、鮎の宝庫とさえ言われている。しかし住民は高齢者ばかりで釣って商売にする人がいない。つぶさに村を調べると首都圏から移転して定住している夫婦が結構たくさん居る。外国生活で自然を楽しむすべを手にした人々が多い。100年以上経った大きな住宅を改造して住んでいる。最近床面積200坪の空き家を見た。去年まで金持ち

夫婦が住んでいたから即利用可能な古民家で、中にある調度品は最高級のものであった。柱、梁の太さ、部屋の大きさに圧倒された。囲炉裏もあるし、一枚板で作った間仕切りの板戸、豪華な彫り物の欄間に感動するばかりであった。ここに住めばお大気気分になれる。意外にも相手の希望譲渡価格は私のような貧乏人でも十分購入可能なのだが、何しろ広すぎて使えない。おまけに草むしりに追われることになるから諦めた。妙義山のおもとは10000㎡の農地を年間12万円で借りられる。過疎地は田舎の人にとっては無意味なものも東京人にとっては意外と宝の山である。そこでマンション居住の皆さんが群馬県に来れば結構楽しめる。グリーンツーリズム（農業観光）、2箇所居住、定住の何れでもよい。農業をした人、農業を辞めた人が選手交代すれば村は元

気になる。団地・マンションの人々がマイクロボスで来ればコミュニティ形成にも役立つはずだ。引きこもり老人ゼロをマンション経営の目標とするにはいいチャンスだ。手付かずの自然に加え近くには牧場も天文台もあるから子供も楽しめる。都市部の祭りに田舎から大挙して蕎麦打ちに来てもらえば盛り上がる。やや暇な人、暇を持て余している人、人生の転機を考えている人は群馬県の西上州に一度足を運んで欲しい。南牧村の道の駅「南牧オアシス」には16人の農家のばあちゃんが協同で野菜の直売をしている。野菜はもちろん蜂蜜などびっくりするほど安い。原価計算をできない集団として周囲からかわれているが、ばあちゃんたちは気にしない。仕事が無いところで働いていることが誇りのようだ。埴管ネットと村が何らかの付き合いができたなら幸いである。単なる姉妹協定だけでなく防災協定も結ばば双方の安心が確保される。

マンション再生のお手伝いをして四半世紀

あなたのマンションに新しい生命を吹き込みます

～Total Renewal～

大規模修繕から設備改修・内装リフォームまで充実したアフターメンテナンス体制で培った信頼が世代を超えた永いお付き合いを実現しています

Kenso 建装工業株式会社

マンションリニューアル事業部
〒105-0003 東京都港区西新橋3-11-1
TEL 03-3433-0503 FAX 03-3433-0535
URL <http://www.kenso.co.jp/>

